

「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー
安土城築城 450 年記念

「安土山図屏風」研究の最前線Ⅲ

プログラム

14:00～14:30 記録に残された「安土山図屏風」

松下 浩（滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課副主幹）

14:30～15:30 天正遣欧使節～「安土山図屏風」とヴァリニャーノの覚書

藤川真由氏（明治大学特任准教授）

15:30～15:40 休憩

15:40～15:50 パネルディスカッション「安土山図屏風」研究の最前線Ⅲ

パネラー：藤川真由氏・松下浩

コーディネーター：木戸雅寿（滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課参事員）

日 時：令和8年（2026）7月18日（土） 14:00～16:30

会 場：コラボしが21 滋賀県大津市打出浜2-1

主 催：滋賀県（観光文化スポーツ部文化財保護課）

発行日：令和8年（2026年）7月18日（土）

編集・発行：滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL077-528-4678 FAX077-528-4956 E-Mail castle@pref.shiga.lg.jp

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/>

「淡海の城」友の会

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/312347.html>





全16ヵ所で安土城の復元体験ができるアプリケーション
天主は6種類もの復元案を体験できる!

復元・体感アプリ

安土城

日本史上に燦然と輝く名城

織田信長の「安土城」を

現地で復元体験

題字：信長右軍 権長殿

- 外観だけでなく、天主の中も体験。
- 「信長公記」にも記録が残る盃蘭盆会や、幻の行幸も体験。
- 織田信長、明智光秀、羽柴秀吉らがARで出現。一緒に記念撮影。
- 充実の解説。発掘体験機能や、家紋スタンプラリーも楽しめます。
- およそ700項目にも及ぶ“織田信長年表”も。
- 今日は何が起こった日なのか？
織田家の今日の出来事もわかります。



ダウンロード無料!

安土城

滋賀県



お問い合わせ先

滋賀県文化スポーツ課文化財保護課
〒520-8677 滋賀県大津市京町西1丁目1-1
E-mail: casule@pref.shiga.lg.jp

©Shiga Prefectural Government. All Rights Reserved.

記録に残された「安土山図屏風」

滋賀県観光文化スポーツ部文化財保護課 松下 浩

1. 「安土山図屏風」とは？

- ・織田信長が安土城と城下町を描かせた屏風
- ・宣教師アレッサンドロ・ヴァリニャーノに贈る。
- ・天正遣欧使節によってローマ教皇グレゴリウス13世に贈られる。
- ・バチカン宮殿「地図の画廊」に飾られるが、その後行方不明に。現在も所在不明。
- ・屏風の実像については不明～形態・法量・構図

2. 屏風の作者

史料1「お湯殿の上の日記」

～天皇に近侍する女官たちが記した当番日記。

(天正8年8月)

十三日。(中略) あづちのてい(安土の邸) かきけん七郎にひやうふ(屏風)にかゝせて。

のふなか(信長) けさんに入る。

十四日、昨日のひやうふ(屏風)に。ちよくしよ(勅書)をと申まゝ。あくひつ(悪筆)をそめ(染め)いたす。

- ・屏風が天皇に見せられた。
- ・「かきけん七郎」～狩野松栄(源七) または狩野永徳(源四郎)
- ・安土城天主の障壁画は狩野永徳

3. 制作の様子

史料2 フロイス「日本史」

～イエズス会の宣教師ルイス・フロイスが記したイエズス会布教史

一年前に信長が作(らせ)た、屏風と称せられ、富裕な日本人たちが、(独自の)方法で用いる飾り付けの布(?)である。それは金色で、彼らの間できわめて愛好される(風物)が描かれている。彼はそれを日本でもっとも優れた職人に作らせた。その中に、城を配したこの市を、その地形、湖、邸、城、街路、橋梁、その他万事、実物どおりに寸分違わぬように描くことを命じた。

- ・金色～金碧画 墨絵、水墨画ではない cf.洛中洛外図
- ・実物通り寸分違わぬように描かせた～写實的 資料的価値が高い

4. ローマへ贈られる

史料3 ドゥアルテ・デ・サンデ「天正遣欧使節記」

～アレッサンドロ・ヴァリニャーノが使節の日記などをもとに編さんした記録。

わが国から持参した若干の贈物を敬意の徴として猊下に奉呈した。その贈物の中には巡察使のパドレさまに信長贈物とした絵画もあり、この絵画のうちには信長が築いた安土の非常に広大な城壁が描かれていた。(中略) 教皇猊下は安土の山が描かれているあの幾つかの画を、この見事な画廊に陳列するように命ぜられた。

- ・天正遣欧使節の献上品の中に「安土山図屏風」
- ・「画廊」に陳列。

5. 屏風の形状

史料4 ダニエルロ・バルトリ編「耶蘇会史」

～イタリアフェラーラ出身のイエズス会士ダニエルロ・バルトリが編さんしたイエズス会の歴史

そのうち、最も優れたるものは、かの地に於いて屏風と称する、二枚の家具にして、その一には安土山の新市、他の一には安土山の難攻不落の城を画きたるものなり、

全くかの国の風による、誠に精巧なる作品にして、現時画筆を動かすに最も巧みなる画工が、千度画き直して初めて完全に信長の満足を得るに至りしものなり、

この二枚の屏風はその壮麗なる陳列館に置かれたり、
大算術家イグナシオ・ダンテの地図の壁に掛けられたる

- ・「二枚」 二曲か一双か
 - ・一枚には城下町、一枚には安土城を描く
 - ・最高の画工に何度も描き直させて完成
 - ・イグナシオ・ダンテの地図の壁＝地図のギャラリー に掲示
- ※イグナシオ・ダンテ～ドメニコ会修道士。地図のギャラリーの装飾プロジェクトに参加

6. 屏風の法量

史料5 ウルバーノ・モンテ「年代記」

～ミラノの地理学者ウルバーノ・モンテの著作

教皇に贈ったものの中に、ナブナンガといわれる日本の首都を彩色した絵画がある。それは腕2本分〔約120センチメートル〕の高さで、長さは腕4本分である。

・高さ120cm×幅240cm

7. 屏風のスケッチ

史料6 フィリップ・ヴァン・ウィングのスケッチ（『古代の神々の図像』所載）

～ルーヴァン（現ベルギー）出身の考古学者フィリップ・ヴァン・ウィングが書き残した屏風のスケッチ。古代の神々の図像を集成したヴィンチェンツォ・カルターリの原著を、ロレンツォ・ピニョリーアが増補改訂した際に挿図として収録された。

先に名を記したフィリップ・ヴィンゴミオは日本人たちの諸神性に捧げられた断崖上の神殿群を描画したが、かれはそれを教皇グレゴリウス13世に贈るため日本人使節たちがもたらした書画の数々から写したものと語っている。（挿図の注釈）

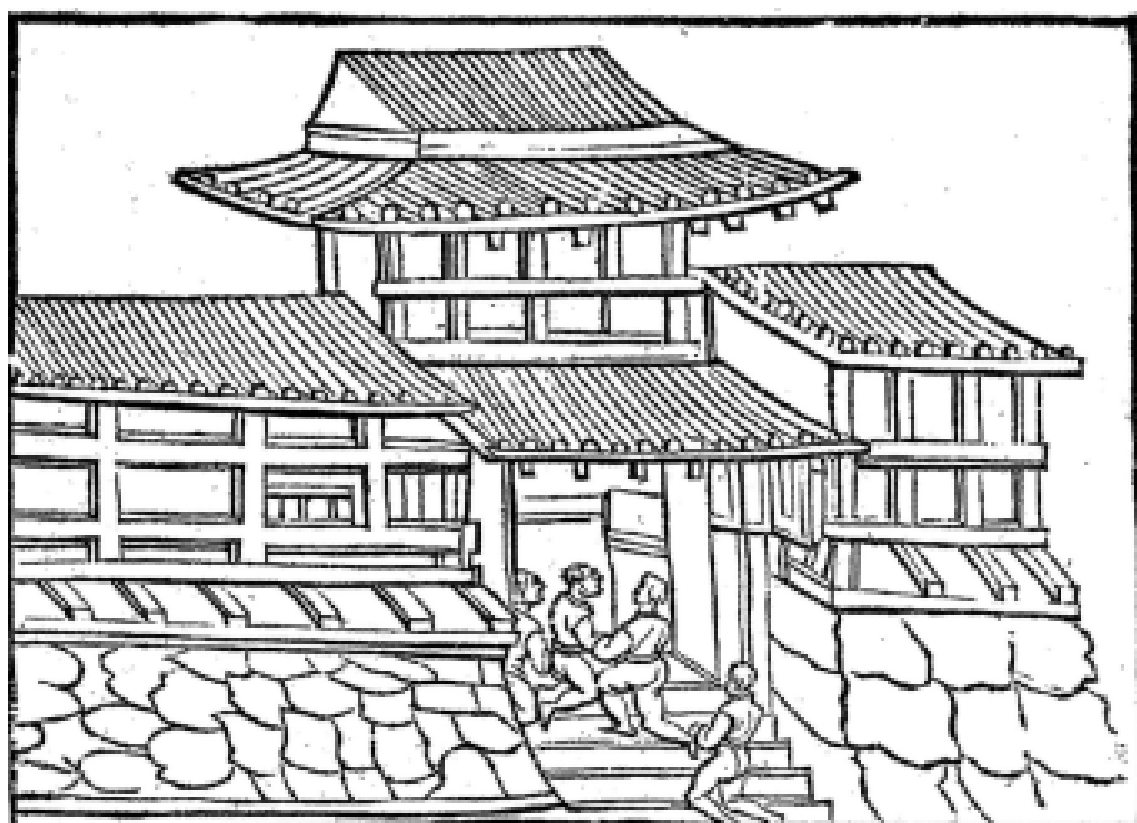
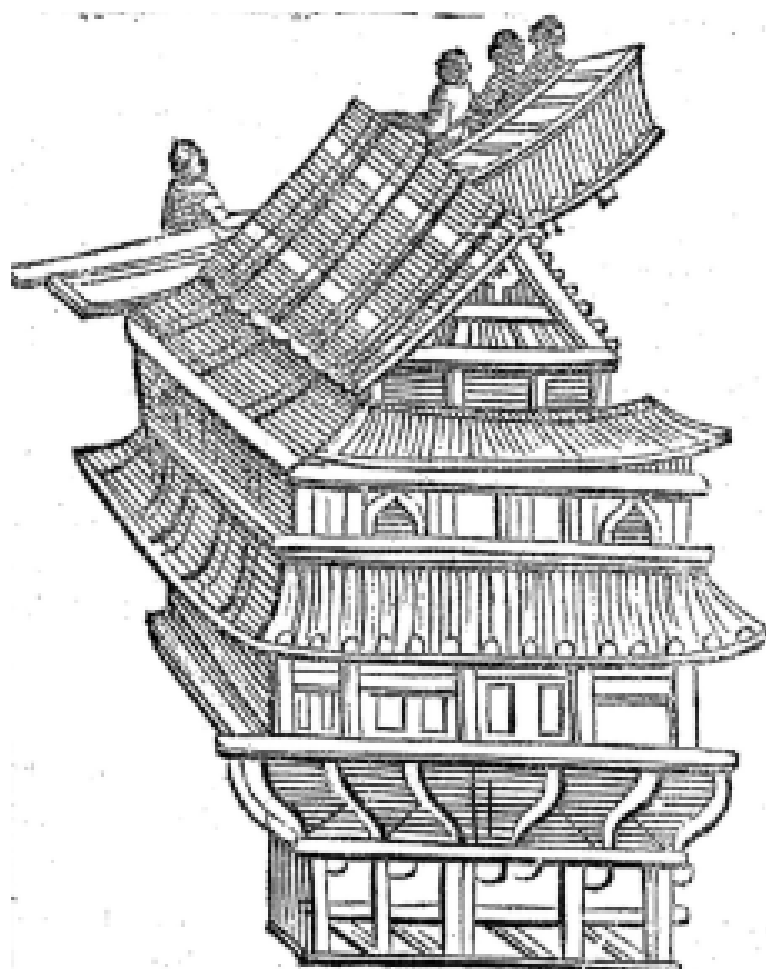
- ・「安土山図屏風」に描かれた絵の唯一の手掛かり。
- ・城門？櫓？惣見寺？
- ・スケッチが本の挿絵になるまで～ヨーロッパにおける広範な東洋学者ネットワークの存在

史料7 ウィングの書簡（オルテリウス宛）

～1592年7月15日（13日）、フィリップ・ヴァン・ウィングが友人の地理学者オルテリウスに送った書簡。

今朝方、このギャラリーに入る権利が認められたのです。暑さによる大変な困難のなか手間をかけて、私はこのラティウムの地図を写したのですー立ち通しで、私としての最善を尽くしてー。これこそ、あなたが長い間求めていたものでした。そして、私は測定器具を使わずに、見たそのままに模写したのですが、あなたはいずれ、その出来映えが、誰かがコンパスを使って模写したものに引けを取らないものであることを認めることになるでしょう。少なくとも、コンパスを使って誰かが写していたらずっといい、などということはありません。私は、自分自身でこれを行ったのです。（竹本千鶴「安土山図屏風を描き遺したフランドル人」『日蘭学会会誌』34-1 2010年）

- ・ウィングは1592年8月にフィレンツェで死亡～屏風が画廊に存在した時期を特定 1592年7月までは存在



天正遣欧使節： 安土山図屏風とヴァリニャーノの覚書

明治大学特任准教授 藤川真由

研究は進んでおるか？

こやつは必死に頑張っているから、
資料の無断転載と
発表内容の盗用はしないようお願い奉る。
写真もご遠慮願う。



Made-in-
Italy byobu

安土山図屏風をもとに
ローマで
屏風を制作

第一次プレゼント計画（1583年） 信長

第二次プレゼント計画（1587?-1588年） 万暦帝

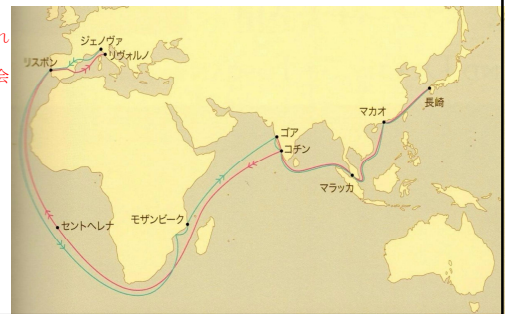
天正遣欧使節

大友宗麟らキリシ
タン大名の名代



天正遣欧使節 と イエズス会士アレッサンドロ・ヴァリニャーノ

- 1582: 長崎出航
- 1583: ゴアで別れ
- 1585: ローマ
- 1587: ゴアで再会
- 1588: マカオ
- 1590: 長崎



第一次計画（1583年）

指令書

「プロクラドールとして今からローマに行くヌーノ・ロドリゲス神父が従うべき規則と指示」

ゴアのコレジオの校長

言語：ポルトガル語
ローマ・イエズス会文書館

「指令書」

ローマからの帰りに、信長と、何年か前に
スペイン王に見事な日本刀を贈った大友宗
麟に対して、何らかの贈物を送るようス
ペイン王に要請するように

カトリック世界の
「世俗」分野のトップ

1) Vは、スペイン王から信長にプレゼントを送って欲しかった

2) Vは「指令書」をゴアで制作した時（1583年12月12日）、信長がすでに亡くなっている事は知らなかった

「指令書」

教皇へ献上する安土
図屏風（+イエズス
会総長への屏風？）

また、私が送るもの（屏風）と同じ様式の屏風（beobos）を教皇に制作していただければ幸いです

カトリック世界の
「精神」分野のトップ

「指令書」

安土図屏風と一緒に

永徳？の絵が素晴らしかったように

それらにローマで金を施し、素晴らしく見事な絵画を描けば、信長への贈り物として大いに評価されることでしょう。

「指令書」

Vは日本の習慣をよく知っている

屏風は日本で不可欠な品であり、ローマから来れば、大いに珍重されることでしょう

日本人は、舶来物好き。しかも中国、東南アジア、インドよりもっと遠いところから来る！

「指令書」

しかし、それらに描かれるものが日本人の好みに合うように、メスキータ神父と日本人が、まず下絵を確認する必要があります。

天正使節の4人（伊東マンショら）の他、修道士ジョルジェ・デ・ロヨラ、コンスタンティノ・ドラード、アグスティーン



長崎歴史博物館

2005年に
教皇グレゴリウス13世
子孫宅にて発見！

津村孝司
(安土町長)
+
Paola Cavaliere
パオラ・カヴァリエレ
(ミラノ大学)





第一次プレゼント計画（1583年）

恐らく屏風は制作されなかった

- 1) グレゴリウス13世の突然の死
- 2) 次の教皇シクストゥス5世はフランシスコ会派（イエズス会のライバル）出身
- 3) 技術的な問題
- 4) 時間不足
- 5) 信長の死をイエズス会が知っていた？

第二次計画（1587?–1588年）

教皇が中国国王（皇帝）に贈呈品のために送るべき品々に関する覚書（請願書）

覚書

言語：（ポルトガル語の言葉が混じる）スペイン語
年：恐らく1588
* この年にヴァリニャーノがミケーレ・ルッジェーリ Michele Ruggieri をマカオからローマに派遣（中国を描いた屏風を持参）
ローマ・イエズス会文書館



「覚書」

（ローマで作られる屏風は）、

日本の騎士たちが **天正遣欧使節**

教皇に与えた屏風と **安土図屏風！！！！！！**

同じ大きさ、同じ幅でなければならず、同じ装飾が施されていないといけません。

Relatione del viaggio et arrivo in Europa, Roma et Bologna, dei serenissimi principi giapponesi (Alessandro Benacci, 1585)

とりわけ彼らは、高さ2 braccia、長さ4或いは5 bracciaにおよぶ、「ノブナガ」（Nobunanga）として知られる日本の主要都市を描いた絵画（un quadro）を教皇に献上した。

148 x 296-370 cm
杉森哲也「都市図屏風の成立と展開－日欧交流の視点から－」2005；
Mark Erdmann, "Azuchi Screens as Object, as Symbol, as Political Tool"

